

## [010]北鮮演習林植物調査

初島, 住彦  
九州帝國大學北鮮演習林

<https://doi.org/10.15017/14213>

---

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 10, pp.1-175, 1938-07-30. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン :  
権利関係 :

量混ざる部分あり。(詳細附圖参照)

### 3 アカマツ群叢

本群叢はアカマツの純林よりなるものにして西下面方面の山頂又は低地の岩石地帯に散在しその面積は著しからず。(附圖参照)

### 4 モンゴリナラ群叢

本群叢は最も分布廣く通常海拔 1000 米以上 1400 米以下の尾根筋に分布するも特に西下面方面に於て發達良好なり。モンゴリナラを優勢木とし林下にはエゾヤマハギ最も優勢なる型なり。(附圖参照)

### 5 ドロ、エゾノタケカンバ、マンシウシラカバ、アムールシナノキ、ヤチダモ等を主とする群叢

本群叢は通常中高地以下の澤通りの森林を形成しその構造は極めて複雑にして明瞭ならず。又安定せる群落にあらず、群落の更行と共に樺、ドロの類は消失の運命にあるものにして最後迄残存する種類は恐らくイタヤカヘデ、アムールシナノキ、ヤチダモ等の比較的好蔭性の喬木類なるべし。

## 四、分布上注意すべき植物及新植物

### *Salix thaimasta* Kimura ミヤコヤナギ

本種は 1926 年木村有香氏により發表せられたる柳にして type は京都附近なり。今本種を北鮮地方に見出したるは分布上注目するに値す。低地の河原にタイリクキヌヤナギ、テウセンヲノヘヤナギ等と混生し稀なり。(本種の鑑定は木村有香氏に依る)。

### *Sedum Selskianum* Regel et Maack ケキリンサウ (新稱)

従來滿洲には知られたるも朝鮮には新發見のキリンサウの一種にして全株毛茸を有するを特徴とす。低地の岩石地帯に生じ稀なり。

### *Caltha natans* Pallas ヒメエンコウサウ

本種も従來滿洲迄は知られたるも本邦領土にては初發見なり。低地の河中に生じ稀なり。

### *Sambucus barbinervis* Nakai アムールニハトコ

從來アムール、滿洲には知られたるも朝鮮には記録せられたるを聞かず。葉は披針形を呈し一年枝、葉柄、葉裏特に脈腋に沿ひ開出毛多し。

**Lonicera chrysantha** var. **glabrescens** Hatusima ケナシネムロブシダマ(新稱)

花梗はネムロブシダマに比し少々細く、短く長さ1-1.5cm位にして基本種に近きも全株毛茸少く殊に花梗、葉の表面は殆んど無毛にして稍光澤あるを異にす。

低地の河畔に生じ稀なり。

**Poa Hatushimae** Ohwi, sp. nov. ホクセンイチゴツナギ(新稱)

全株少々軟質平滑なる一種にして大井次三郎氏鑑定の結果新種なる事判明せり。

**Cypripedium macranthum** var. **leucanthum** Hatusima シロバナホテニアツモリ(新稱)

ホテニアツモリの白花品なり。

**Ribes glabellum** Hedlund カラフトスグリ

シベリア地方に分布するスグリ的一种にて從來本邦にては樺太に知られたるのみなり。

## 五、演習林産植物數の統計

### a. 系統分類上の統計

今演習林産植物の系統分類上の統計を示せば次表の如し。

分類 範疇	科	屬	種	變種	品種
古生花被區	49	154	284	8	1
後生花被區	13	85	136	5	2
雙子葉植物	67	239	420	13	3
單子葉植物	11	52	111	2	
被子植物	78	291	531	15	3
裸子植物	2	5	7		
種子植物	80	296	538	15	3
羊齒植物	4	21	34		
合計	84	317	572	15	3